

黒部市民病院新改革プランの点検・評価
(平成30年度実績)

令和元年8月

1. はじめに

黒部市は、平成27年3月に新たに総務省から示された「新公立病院改革ガイドライン」を受け、平成29年3月に「黒部市民病院新改革プラン」を策定しました。

この新改革プランの期間は平成28年度から平成32年度までの5年間で、黒部市病院事業運営協議会の中で毎年、点検・評価・公表を行うことといたしました。

2. 評価方法

目標に対する評価を以下の区分で行いました。

区 分	評価の内容
A	目標以上に達成されている
B	目標が達成されており一定の実績がある
C	目標が未達成で実績不足である

3. 点検・評価

平成30年度の点検・評価にあたり「地域医療構想を踏まえた当院の役割」「再編・ネットワーク化」「経営形態の見直し」については、現行の診療報酬や経営形態に合わせて数値目標の一部変更を行いました。

今回の点検・評価は、「医療機能等指標に係る数値目標」「経営指標に係る数値目標」について行いました。

次頁 黒部市民病院新改革プランの進捗状況及び評価①～④

黒部市民病院新改革プランの進捗状況及び評価(平成30年度)①

項目・区分等		最終目標 (32年度)	単位	目標設定の考え方	30年度 目標 実績		取り組みと実績及び課題等	自己評価																																							
医療機能等指標に係る数値目標	紹介率	50.0	%	地域の医療機関との連携を進めるため、紹介率・逆紹介率の向上を目指す。	33.8 ↓ 50.0	53.3	<ul style="list-style-type: none"> 医師、看護師、事務など病院全体で取り組んだ結果、目標数値を達成。令和元年6月1日より地域医療支援病院に認定された。ただ、今後もこの数値を維持する事が求められ、院内での努力はもちろん地域の開業医への協力を引き続き呼びかけていく。 	A																																							
	逆紹介率	70.0	%	令和元年6月1日より地域医療支援病院に認定された。要件である紹介率50%、逆紹介率70%以上を今後も継続していく。	62.0 ↓ 70.0	88.8		A																																							
	新入院患者数	8,650	人	基幹病院としての役割を果たし、新入院患者数の増を目指す。	8,530	8,776	<ul style="list-style-type: none"> 紹介率の上昇に伴い新入院患者が増えている。 平均在院日数については短縮が図られ、急性期病院としての機能が維持されており、今後も目標数値達成に努める。 	A																																							
	初発がん受診患者数 (注)数値の確定には2年を要するため変動有	600	人	がん診療連携拠点病院として初発がんの受診患者数の増を目指す。	600	596	<ul style="list-style-type: none"> ガン診断、治療体制の充実に努める。 他施設との連携強化に努める。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>(件)</th> <th>診断のみ</th> <th>診断・治療</th> <th>他施設診断・治療</th> <th>計</th> <th>治療有計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成28年度</td> <td>45</td> <td>500</td> <td>73</td> <td>618</td> <td>573</td> </tr> <tr> <td>平成29年度</td> <td>68</td> <td>529</td> <td>76</td> <td>673</td> <td>605</td> </tr> <tr> <td>平成30年度</td> <td>44</td> <td>513</td> <td>83</td> <td>640</td> <td>596</td> </tr> </tbody> </table>	(件)	診断のみ	診断・治療	他施設診断・治療	計	治療有計	平成28年度	45	500	73	618	573	平成29年度	68	529	76	673	605	平成30年度	44	513	83	640	596	B															
	(件)	診断のみ	診断・治療	他施設診断・治療	計	治療有計																																									
	平成28年度	45	500	73	618	573																																									
平成29年度	68	529	76	673	605																																										
平成30年度	44	513	83	640	596																																										
内視鏡手術件数 (注)内視鏡センター施行分除く	900	件	高度な医療の提供状況の把握として、内視鏡手術件数の増を目指す。	900	589	<ul style="list-style-type: none"> 30年度は7月より呼吸器外科の医師を確保できたことなど、前年度比 77件改善しているが、目標値に向けた更なる手術件数増を目指す。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>(件)</th> <th>外科</th> <th>整形外科</th> <th>産婦人科</th> <th>泌尿器科</th> <th>耳鼻科</th> <th>呼吸器外科</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成27年度</td> <td>111</td> <td>190</td> <td>155</td> <td>96</td> <td>66</td> <td>31</td> <td>649</td> </tr> <tr> <td>平成28年度</td> <td>134</td> <td>141</td> <td>144</td> <td>90</td> <td>79</td> <td>27</td> <td>615</td> </tr> <tr> <td>平成29年度</td> <td>116</td> <td>111</td> <td>137</td> <td>103</td> <td>45</td> <td>0</td> <td>512</td> </tr> <tr> <td>平成30年度</td> <td>125</td> <td>116</td> <td>134</td> <td>119</td> <td>52</td> <td>43</td> <td>589</td> </tr> </tbody> </table>	(件)	外科	整形外科	産婦人科	泌尿器科	耳鼻科	呼吸器外科	計	平成27年度	111	190	155	96	66	31	649	平成28年度	134	141	144	90	79	27	615	平成29年度	116	111	137	103	45	0	512	平成30年度	125	116	134	119	52	43	589	C
(件)	外科	整形外科	産婦人科	泌尿器科	耳鼻科	呼吸器外科	計																																								
平成27年度	111	190	155	96	66	31	649																																								
平成28年度	134	141	144	90	79	27	615																																								
平成29年度	116	111	137	103	45	0	512																																								
平成30年度	125	116	134	119	52	43	589																																								
救急患者に占める入院患者の割合	20.0	%	救急の適正な利用状況の把握のため救急患者の入院患者数の割合を一定以上に保つ。	20.0	19.2	<ul style="list-style-type: none"> 目標数値に近づいてきており、今後も地域救命センターとしての役割を担っていききたい。 新川医療圏小児急患センター、下新川一次急患センターとの連携を推進する。 	B																																								

自己評価：達成状況評価 A→目標以上、B→一定の実績、C→実績不足

黒部市民病院新改革プランの進捗状況及び評価(平成30年度)②

項目・区分等	最終年度(32年度)	単位	目標設定の考え方	30年度		取組	実績	課題	自己評価	黒字病院平均																											
				目標	実績					H27	H28	H29																									
経営指標に係る数値目標 1/3	経常収支比率	96.7	%	経常収支比率は病院の経営全体を、医業収支比率は本業での収支をみるための指標であり、100%が損益の分岐点となる。改革プラン期間中は多額の減価償却費の影響により、100%超えを目標とはしない。	96.5	95.1	<ul style="list-style-type: none"> 一般病棟入院基本料1(旧7対1看護体制)の算定継続 看護師の確保 地域がん診療連携拠点病院・急性期医療の機能強化 	<ul style="list-style-type: none"> DPC係数増による収益の改善 医業収支比率は、目標を達成 減価償却費を除いた医業収支比率は、給与費や経費等の支出増により目標に届かなかったが、106%以上を達成 	<ul style="list-style-type: none"> 一般病棟入院基本料1(旧7対1看護体制)の維持 総合入院体制加算の施設基準取得 	B	103.1	102.7	102.0																								
	医業収支比率	95.0	%		94.7	95.1	<table border="1"> <caption>Line Chart Data (Heisei 26-30)</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>経常収支比率</th> <th>医業収支比率</th> <th>減価償却費を除く医業収支比率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成26年度</td> <td>100.0%</td> <td>100.8%</td> <td>110.6%</td> </tr> <tr> <td>平成27年度</td> <td>98.7%</td> <td>100.0%</td> <td>107.4%</td> </tr> <tr> <td>平成28年度</td> <td>98.5%</td> <td>98.9%</td> <td>107.9%</td> </tr> <tr> <td>平成29年度</td> <td>96.5%</td> <td>97.1%</td> <td>108.7%</td> </tr> <tr> <td>平成30年度</td> <td>95.1%</td> <td>95.1%</td> <td>106.3%</td> </tr> </tbody> </table>			年度	経常収支比率	医業収支比率	減価償却費を除く医業収支比率	平成26年度	100.0%	100.8%	110.6%	平成27年度	98.7%	100.0%	107.4%	平成28年度	98.5%	98.9%	107.9%	平成29年度	96.5%	97.1%	108.7%	平成30年度	95.1%	95.1%	106.3%	A	97.5	95.5	96.1
	年度	経常収支比率	医業収支比率	減価償却費を除く医業収支比率																																	
	平成26年度	100.0%	100.8%	110.6%																																	
	平成27年度	98.7%	100.0%	107.4%																																	
平成28年度	98.5%	98.9%	107.9%																																		
平成29年度	96.5%	97.1%	108.7%																																		
平成30年度	95.1%	95.1%	106.3%																																		
減価償却費を除いた医業収支比率	106.5	%	上記2つの指標には特殊要因として増改築事業にかかる減価償却費が含まれるため、これを除いて106%以上を保ち将来の黒字化につなげることを目標とする。	107.7	106.3	<table border="1"> <caption>Line Chart Data (Heisei 26-30)</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>経常収支比率</th> <th>医業収支比率</th> <th>減価償却費を除く医業収支比率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成26年度</td> <td>100.0%</td> <td>100.8%</td> <td>110.6%</td> </tr> <tr> <td>平成27年度</td> <td>98.7%</td> <td>100.0%</td> <td>107.4%</td> </tr> <tr> <td>平成28年度</td> <td>98.5%</td> <td>98.9%</td> <td>107.9%</td> </tr> <tr> <td>平成29年度</td> <td>96.5%</td> <td>97.1%</td> <td>108.7%</td> </tr> <tr> <td>平成30年度</td> <td>95.1%</td> <td>95.1%</td> <td>106.3%</td> </tr> </tbody> </table>			年度	経常収支比率	医業収支比率	減価償却費を除く医業収支比率	平成26年度	100.0%	100.8%	110.6%	平成27年度	98.7%	100.0%	107.4%	平成28年度	98.5%	98.9%	107.9%	平成29年度	96.5%	97.1%	108.7%	平成30年度	95.1%	95.1%	106.3%	B	104.6	104.4	104.8	
年度	経常収支比率	医業収支比率	減価償却費を除く医業収支比率																																		
平成26年度	100.0%	100.8%	110.6%																																		
平成27年度	98.7%	100.0%	107.4%																																		
平成28年度	98.5%	98.9%	107.9%																																		
平成29年度	96.5%	97.1%	108.7%																																		
平成30年度	95.1%	95.1%	106.3%																																		
給与費対医業収益比率	53.5	%	病院の職員数が適正かどうかを判断する指標。看護師等の人員増の計画もあるが、当院では退職手当負担金を除き最終的に51%以下に抑える。	52.5	53.2	<ul style="list-style-type: none"> 適正な職員配置 出退勤の管理 	<ul style="list-style-type: none"> 薬剤師1名、管理栄養士1名、臨床工学技士1名増員 看護師は、臨時職員を含め13名増員 	<ul style="list-style-type: none"> 医業収益増に向けた取組 人件費の適正化 	B	/	/	/																									
退職手当負担金を除いた給与費対医業収益比率	50.8	%		49.9	50.3	<table border="1"> <caption>Line Chart Data (Heisei 26-30)</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>黒字病院</th> <th>当院</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成26年度</td> <td>51.7%</td> <td>46.9%</td> </tr> <tr> <td>平成27年度</td> <td>50.1%</td> <td>48.4%</td> </tr> <tr> <td>平成28年度</td> <td>50.1%</td> <td>48.5%</td> </tr> <tr> <td>平成29年度</td> <td>53.0%</td> <td>48.7%</td> </tr> <tr> <td>平成30年度</td> <td>50.3%</td> <td>50.3%</td> </tr> </tbody> </table>			年度	黒字病院	当院	平成26年度	51.7%	46.9%	平成27年度	50.1%	48.4%	平成28年度	50.1%	48.5%	平成29年度	53.0%	48.7%	平成30年度	50.3%	50.3%	B	50.1	53.0	51.9							
年度	黒字病院	当院																																			
平成26年度	51.7%	46.9%																																			
平成27年度	50.1%	48.4%																																			
平成28年度	50.1%	48.5%																																			
平成29年度	53.0%	48.7%																																			
平成30年度	50.3%	50.3%																																			
材料費対医業収益比率	27.0	%	医業収益に対する材料費の割合を示す指標。平成27年度の黒字病院平均以下を目標とした。	27.0	26.5	<ul style="list-style-type: none"> 材料ごとの個別価格交渉 全国的なベンチマークの活用 薬品見積依頼業者数の制限を視野に入れた交渉 	<ul style="list-style-type: none"> 価格交渉値引効果 薬品1.09%削減(約17,500千円) 診療材料1.07%削減(約10,300千円) 	<ul style="list-style-type: none"> 医薬品のジェネリック移行推進 85%以上を目指す(DPC係数関連) H30年度平均82.2% 診療材料等の預託推進 	A	27.0	24.9	26.1																									

自己評価 : 達成状況評価 A→目標以上、B→一定の実績、C→実績不足

黒部市民病院新改革プランの進捗状況及び評価(平成30年度)③

項目・区分等	最終年度 (32年度)	単位	目標設定の考え方	30年度		取組	実績	課題	自己評価	黒字病院平均																							
				目標	実績					H27	H28	H29																					
経営指標に係る数値目標 2 / 3	院外処方箋発行率	85	%	薬剤師の人員確保が困難な中、薬剤師の入院患者関係業務への比重拡大のため院外処方箋発行率の増を目指す。	82.0	80.4	・院外処方の推進 ・対前年1.2ポイント改善(79.2%→80.4%)	・透析患者へ拡大	B	黒字病院平均 県内自治体病院平均 86.4 85.0 85.4																							
	一日当たり外来患者数	840	人	他の医療機関との機能分化・医療連携を進め外来患者数の減を目指す。	860	837.5	・逆紹介の推進 ・対前年 一日当たり外来患者数 内科 △0.2人 整形外科 △2.4人 皮膚科 △5.0人 歯科口腔 3.0人 他 計 1.7人 (「診療科別患者数及び診療収益の比較表」参照)	・他の医療機関と連携を推進し、更なる逆紹介件数増を目指す	A	889	910	932																					
	一日当たり入院患者数 (一般のみ / 405床)	320	人	一般病棟入院基本料1(旧7対1看護体制)を維持するため一日当たり入院患者数は320人以下とした。	320	317.2	・積極的な退院支援 ・対前年 一日当たり入院患者数 △8.9人 病床利用率 △2.1%	・円滑な入退院支援	A	340	317	329																					
	病床利用率 (一般のみ / 405床)	79.0	%		79.0	78.3	<table border="1"> <caption>病床利用率と平均在院日数の推移</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>病床利用率 (%)</th> <th>平均在院日数 (日)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成25年度</td> <td>85.5%</td> <td>14.4日</td> </tr> <tr> <td>平成26年度</td> <td>90.2%</td> <td>14.7日</td> </tr> <tr> <td>平成27年度</td> <td>83.9%</td> <td>13.9日</td> </tr> <tr> <td>平成28年度</td> <td>82.8%</td> <td>13.6日</td> </tr> <tr> <td>平成29年度</td> <td>80.4%</td> <td>12.9日</td> </tr> <tr> <td>平成30年度</td> <td>78.3%</td> <td>12.2日</td> </tr> </tbody> </table>			年度	病床利用率 (%)	平均在院日数 (日)	平成25年度	85.5%	14.4日	平成26年度	90.2%	14.7日	平成27年度	83.9%	13.9日	平成28年度	82.8%	13.6日	平成29年度	80.4%	12.9日	平成30年度	78.3%	12.2日	A	77.7	74.7
	年度	病床利用率 (%)	平均在院日数 (日)																														
	平成25年度	85.5%	14.4日																														
	平成26年度	90.2%	14.7日																														
平成27年度	83.9%	13.9日																															
平成28年度	82.8%	13.6日																															
平成29年度	80.4%	12.9日																															
平成30年度	78.3%	12.2日																															
平均在院日数 (一般のみ / 405床)	13.0	日	適正な入院期間の推進により在院日数の短縮を目指す。	13.2	12.2	・地域医療連携室社会福祉士、看護師等による積極的な退院支援の実施 ・クリニカルパス見直し	平均在院日数 △1.0日 ・社会福祉士、看護師等による更なる退院支援の実施 ・疾患毎ベンチマークによるクリニカルパス見直し	A	11.9日 / 432床	13.0日 / 425床	11.9日 / 453床																						
一日当たり外来単価	17,000	円	症状の安定した患者を地域の医療機関に逆紹介することにより単価増を目指す。	16,400	17,332	・新たな施設基準の取得 ・専門医療、急性期医療を必要とする患者の他の医療機関からの積極的な受入れ	・対前年 180円増 ・高額な注射・投薬による増収 73,402千円	・紹介、逆紹介患者の推進	A	16,510円	13,670円	13,685円																					
一日当たり入院単価	51,000 ↓ 53,500	円	新たな施設基準の取得、紹介・逆紹介の推進により入院単価増を目指す。 R1 52,000円 R2 53,500円	49,000	49,562	・新たな施設基準の取得 ・地域医療支援病院に認定 ・総合入院体制加算取得の取り組み ・コンサルティングによるDPC制度の院内研修 ・急性期診療終了後の他の医療機関への積極的な紹介	・対前年 1,304円増(48,258円→49,562円) ・呼吸器外科医師確保 ・手術件数の増	・一般病棟入院基本料1(旧7対1看護体制)の維持 ・総合入院体制加算を目指した取り組み ・ベンチマークシステムによる適正な診療方針の検討 ・ハイケアユニット入院医療管理料を目指した取り組み	A	57,483円	55,480円	53,401円																					

自己評価：達成状況評価 A→目標以上、B→一定の実績、C→実績不足

黒部市民病院新改革プランの進捗状況及び評価(平成30年度)④

項目・区分等	最終年度 (32年度)	単位	目標設定の考え方	30年度		取組	実績	課題	自己評価	黒字病院平均			
				目標	実績					H27	H28	H29	
経営指標に係る数値目標 3 / 3	医師の確保 (年度末職員数、初期研修医除く)	72	人	神経内科医もしくは精神科医、呼吸器内科医等常勤医が1人の診療科の複数人体制を目標とする。	72	70	<ul style="list-style-type: none"> 金沢大学及び富山大学の医局との連携 神経内科、精神科、呼吸器内科の増員なし 非常勤医師による診療であった呼吸器外科に7月から常勤医が赴任、2名体制で診療 	<ul style="list-style-type: none"> 診療ニーズの高い呼吸器内科、神経内科、精神科等増員を継続要望(複数人体制の確立) 関連大学医局との密な情報交換及び連携強化 	B	81人	78人	88人	
	看護師の確保 (年度末職員数)	330	人	一般病棟入院基本料1(旧7対1看護体制)の維持のため、人員増を図る。	330	328	<ul style="list-style-type: none"> 県内・近隣県の看護学校訪問 看護学生向け病院見学会の実施 看護部スマートフォン対応ページの充実 	<ul style="list-style-type: none"> H30年4月時点では、337名(前年同月比5名増) 一般病棟入院基本料1(旧7対1看護体制)の継続 看護学生奨学金及び看護職員奨学金返還助成金を創設 一部病棟で二交代制の試行 	<ul style="list-style-type: none"> 産休・育休・介護などライフステージに合わせた多様な働き方の提案 ワークライフバランス推進 	B	370人	358人	408人
	他会計繰入金対医業収益比率(資本金収入分含む)	7.9	%	一般会計において負担すべき経費について繰入比率のアップを図る。	8.1	6.5	<ul style="list-style-type: none"> 一般会計として負担すべき経費を整理し、繰出を要望 	<ul style="list-style-type: none"> 前年度比26,441千円の繰入増 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も収支見通しに基づいた繰入額の確保 	C	11.0%	11.4%	11.6%
	現金保有残高	1,800	百万円	増改築事業等で借り入れた企業債の償還が徐々に始まり将来的に資金の減少が見込まれるが、キャッシュフロー残高は改革プラン期間中増加を図る。	1,600	1,713 (1,803)	<ul style="list-style-type: none"> 予算の策定や執行において経費の削減や収益増が見込まれる事業に対する投資を推進 	<ul style="list-style-type: none"> 給与費のほか施設設備運転管理業務の委託化や光熱水費の単価増に伴う経費の増加など支出増により前年度比約1億円減少(年度末の現金残高は18億円であるが、未払金など4月以降に9千万円程度の支払いを含んでいる) 	<ul style="list-style-type: none"> 企業債償還への対応と現金の確保 	A			

自己評価 : 達成状況評価 A→目標以上、B→一定の実績、C→実績不足

4. 病院事業運営協議会委員からのご意見

- ・政策医療の担い手として（感染、周産期、災害、がん等）県全体の連携、新川医療圏全体の医療支援・介護支援の推進主体となってほしい。
- ・ネットワーク化における懸案であった「あさひ総合病院」との電子カルテ双方向連携を開始し連携強化が図れました。引き続き病診連携など関係機関との連携を密に推進してほしい。
- ・紹介率、逆紹介率の高い水準を保ち、入院だけでなく外来でも分化・連携強化のため地域医療支援病院を継続し、急性期医療の更なる発展を目指してほしい。
- ・外来の診療体制強化を目指して医師確保の働きかけを継続してほしい。
- ・看護師確保のための制度推進・PR強化を継続してほしい。